

# 日本古生物学会 2025 年年会・総会

2025 年 6 月 27 日（金）～6 月 29 日（日）学会

6 月 30 日（月）巡検

北海道大学

## \*\*\*\*\*1. プログラム 概要\*\*\*\*\*

6 月 27 日（金）北海道大学クラーク会館講堂

【13:00-16:30】 シンポジウム

「国内外における発掘調査による恐竜進化と分布拡散の新展開」… iii

【16:40-18:10】 総会 …………… iv

【18:30-20:30】 懇親会（生協北部食堂）（要事前申込）…………… iv

6 月 28 日（土）北海道大学工学部（オープンホール，A-D 会場）・クラーク会館・理学部

特別講演（学術賞受賞記念講演） オープンホール

【09:00-10:00】 伊庭靖弘「Digital fossil-mining: 次世代イメージング技術による生命化石探査法の革新」…………… v

【10:10-11:10】 黒柳あずみ「有孔虫が貢献するこれからの環境変動研究」…………… v

特別講演（中国古生物学会会長講演） オープンホール

【11:20-12:20】 特別講演（中国古生物学会会長講演）A 会場

Wang Jun（王軍）「Permian Vegetational Pompeii: a 300 MYA coal-forming swampy forest」（ペルム紀の植生のポンペイ：3 億年前の石炭形成湿地林）…………… v

【12:30-13:30】 ランチョン小集会「古生物業界における国内・国外ポスドクに関する情報共有」B 会場）…………… vi

ポスター発表コアタイム クラーク会館（H01-07, P01-52），理学部会場（P53-P78）

【13:40-14:45】 ポスター発表コアタイム 1（ポスター番号 奇数）…………… vi

【14:45-15:50】 ポスター発表コアタイム 2（ポスター番号 偶数）…………… vi

【16:10-17:40】 一般講演 口頭発表 1（A-D 会場）…………… xi

【17:50-18:00】 ポスター賞表彰式（B 会場）…………… xii

【18:10-20:10】 夜間小集会（A 会場）

「みえない"モノ(化石・形質)"による形態進化史再構築」…………… xiii

6月29日（日）会場：北海道大学工学部（A-D会場）

【09:00-10:30】	一般講演	口頭発表2（A-D会場）	.....	xiv
【10:45-12:15】	一般講演	口頭発表3（A-D会場）	.....	xv
【13:30-15:00】	一般講演	口頭発表4（A-C会場）	.....	xvi

## 普及講演会・化石友の会イベント（無料・一般公開）

【15:15-16:45】	「北海道の化石の魅力を語る！」	.....	xvii
---------------	-----------------	-------	------

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください）..... xviii

その他会場案内など..... xviii

2025 年年会参加費：一般会員 6,000 円，学生会員 2,000 円，友の会会員 1000 円，  
一般非会員 7,000 円，学生非会員 3,000 円，名誉会員・高校生以下無料

**2025 年年会への参加は事前登録制です。** 参加される方は，講演の有無に関わらず，以下のサイトにアクセスして，参加登録とクレジット決済を行ってください（名誉会員，高校生以下は参加登録のみ）。

事前参加登録サイト：<https://my-site-108813-105460.square.site/>

＜参加登録期限：2025 年 6 月 26 日（木） 21 時＞

参加登録を行うと受領メールが送られますので，**参加者はそのメールかそれを印刷したものを会場の受付に提示して下さい。** 受付で確認の上，領収書兼用の名札を渡します。

懇親会への参加申込み期限は 6 月 13 日（金）です。iv ページをご覧ください。

6月27日（金） 【12:30-16:10】北海道大学クラーク会館講堂

シンポジウム

「国内外における発掘調査による恐竜進化と分布拡散の新展開」

コンビナー：小林快次（北海道大学総合博物館）

本シンポジウムでは、モンゴル、ウズベキスタン、日本、中国など世界各地で実施されている「国内外の恐竜化石発掘調査」を通じて、さまざまな恐竜グループの進化や分布拡散のメカニズムについて最新の研究成果を共有する。これらの調査は、竜脚類、角竜類、獣脚類といった多様な恐竜の進化過程とその移動パターンの解明に寄与しており、地域特有の進化特性やグローバルな視点からの生物地理学的な変遷について新たな知見をもたらしている。本シンポジウムでは、各地域の恐竜化石記録をもとに、それらが示す進化史の全体像を総合的に議論することで、恐竜多様性とその時空間的な変遷に関する理解を深化させることを目指す。

13:00-13:05 趣旨説明

13:05-13:30 「モンゴルと中国の竜脚類：ジュラ紀後期の多様性」

吉田純輝（福島県立博物館）

13:30-13:55 「モンゴルのケラトプス類：その進化と意義」

千葉謙太郎（岡山理科大学）

13:55-14:20 「ウズベキスタンの恐竜：白亜紀後期の大型獣脚類の生態系変遷」

田中康平（筑波大学）

共同発表者：松本廣直・久保田克博・小林快次・外山欧樹・大友絢琳・アルポミシュ・アンワロフ・アクマジョン・アーメシャエフ

14:20-14:35 休憩

14:35-15:00 「デイノニコサウルス類の進化戦略」

久保田克博（大阪市立自然史博物館）

共同発表者：小林快次・木吉智美・田中康平・キングジャヴ＝ツクトバートル・ダムディンスレン＝イデルサイカン・ツクトバートル＝チンゾリグ

15:00-15:25 「モンゴル・上部白亜系バヤンシレ層における テリジノサウルス類の多様性」

小林快次（北海道大学総合博物館）

共同発表者：久保田克博・田中康平

休憩

15:25-15:50 「アジアの白亜紀の恐竜進化:日本からの視点」  
真鍋真（国立科学博物館・群馬県立自然史博物館）  
15:50-16:05 休憩  
16:05-16:30 総合討論

**【16:40-18:10】 総会**

**【18:30-20:30】 懇親会（生協北部食堂）（要事前申込）**

懇親会は事前申込制です。参加を希望される方は、必ず事前に下記の懇親会申込用 Google Form にて、6月13日（金）までにお申し込みください。参加をキャンセルする場合も 6月13日（金）までにご連絡をお願いします。

場所：北海道大学生協北部食堂

行き方：北海道大学附属図書館北図書館の裏（クラーク会館から徒歩 15 分）

**会費：**

（6月20日までの事前振込）：学生以外 7500 円，学生 5000 円

\* フォームにてお申し込みの方に振込先を連絡します。

（会期中支払）：学生以外 8500 円，学生 6000 円

\* シンポジウム・総会会場の受付にて現金でお支払いください（シンポジウム・総会への出席が叶わずに直接懇親会会場に行かれる方は懇親会会場入り口で懇親会費をお支払いください）。

申込先（Google Form；下の QR コード）



<https://forms.gle/gJr3xALp5LyfLzwP6>

お問い合わせ先：山田 敏弘（pbyamada●sci.hokudai.ac.jp 「●を@に置換」）

6月28日（土）北海道大学工学部（オープンホール, A-D 会場）・クラーク会館・理学部

【09:00-10:00】 オープンホール

特別講演（学術賞受賞記念講演） 伊庭靖弘「Digital fossil-mining: 次世代イメージング技術による生命化石探査法の革新」

【10:00－10:10】 休 憩

【10:10-11:10】 オープンホール

特別講演（学術賞受賞記念講演）

黒柳あずみ「有孔虫が貢献するこれからの環境変動研究」

【11:10－11:20】 休 憩

【11:20-12:20】 オープンホール

特別講演（中国古生物学会会長講演） Wang Jun （王軍）「Permian Vegetational

Pompeii: a 300 MYA coal-forming swampy forest」（ペルム紀の植生のポンペイ：3 億年前の石炭形成湿地林）

【12:20－12:30】 休 憩

【12:30－13:30】ランチョン小集会 B 会場

## 古生物業界における国内・国外ポスドクに関する情報共有

世話人：大山 望（福井県立大学）・今井拓哉（福井県立大学）・相場大佑（深田地質研究所）・佐野瑞穂（名古屋大学）・服部竜士（東京大学）・下田真緒（筑波大学）・板倉義空（熊本大学）・古生物学若手のための会

趣旨：国内外の古生物学業界におけるキャリアパスは非常に多様である。このキャリアパスのなかでも、特に Post-doctoral 研究員（以下、ポスドク：有期雇用、任期付き研究員）では、その情報が広く共有されることは少ない。このポスドク情報が限定されていることは、ポスドクをキャリアパスとして検討する若手にとって障壁の一つとなっている。そこで本小集会では、国内のみならず国外でポスドクを経験した若手研究者に、受け入れまでの過程や研究生活、私生活について情報共有していただく。さらに、小集会参加者による意見交換を通じて、それぞれのポスドク研究における様々なアプローチについて幅広く議論し、古生物学分野におけるキャリア形成の多様性と、現状における課題を理解する機会としたい。本小集会が、特に若手研究者一人ひとりの将来選択を支援するとともに、学会全体でキャリア環境を考える一助となることを目指す。

話題提供（30 分程度）：飯島 正也（中国科学院 IVPP）、大山 望（福井県立大学）、田近周（京都大学）、加藤萌（九州大学総合研究博物館）、多田誠之郎（東京大学総合研究博物館）、主森 亘（帯広畜産大学）、自由討論

※お昼ご飯を持って、食べながら、気軽にご参加できます。

【13:30－13:40】休 憩

【13:40－14:45】ポスター発表コアタイム 1（ポスター番号 奇数）

【14:45－15:50】ポスター発表コアタイム 2（ポスター番号 偶数）

ポスター番号 H01-08, P01-P52 まではクラーク会館、P53-P78 は理学部会場です。

クラーク会館－理学部会場間は徒歩約 10 分かかりますのでご注意ください。

### ＜ポスター講演 クラーク会館会場＞

H01 菊池桃那・大山 望・菊池紫織・平山 廉・新田久男・久保麦野 琥珀中のユスリカ科(ハエ目)の分類学的研究

H02 生末成美・岡田隆生・飯山陽斗 生痕化石に基づいた生物の簡易的推定手法の提案

H03 鈴木嶺桜・瀬戸大暉 ディープラーニングとプログラミングを活用した 化石同定システムの研究開発－山形県寒河江市に露出する本郷層の例－

H04 上野心結 北海道北部下川町の植物化石の分類と産状から当時の植生を考える

- H05 佐藤希望 御船層群および御所浦層群から産出する *Pseudasaphis japonicus* の形態に基づく分類の再検討
- H06 西田翔馬 ワニ類に見られる下顎窓の役割について
- H07 濱野 慧 岐阜県福地地域から産出する微化石について
- P01 吉本恭平・田中源吾 上部ジュラ系葦北層群坂本層上部から産出する介形虫群化石を用いた古環境学的・古生物地理学的研究
- P02 李慶易・Marc Humblet・Luc Feuillerat・井龍康文・藤田和彦 港川層の化石サンゴ群集とその古環境学的意義
- P03 白水菜南子・千徳明日香・筒井英人・山脇信博・森井康宏 ラマン分光法による深海単体性サンゴ *Stephanocyathus spiniger* の骨格形成と固着基盤の鉱物学的特徴
- P04 笹田真菜恵・徳田悠希・石塚 治・針金由美子・鈴木克明 北部沖縄トラフの海山で採取されたサンゴモドキ科ヒドロサンゴの分類学的検討
- P05 高橋拓暉・徳田悠希・野中正法・自見直人・岩谷北斗・松井浩紀・柴田大輔・石輪健樹・山縣広和・巻 俊宏・板木拓也・菅沼悠介 東南極リュツォ・ホルム湾に生息する八放サンゴ類の多様性の解明
- P06 徳田悠希・川北修也・千徳明日香・江崎洋一・田中如樹・長澤祥太郎・中口和光・山口修平・近藤裕介・大塚攻 ムシノスチョウジガイ骨格内の巢穴形成に 内部共生するホシムシが与える影響
- P07 水野愛理・中島駿介・佐藤 圭・ロバートジェンキンス 石川県輪島市鹿磯周辺の岩礁海岸におけるウニおよびその穿孔痕
- P08 大泰司恵 淡水カメ類における骨吸収量の定量的評価と性差
- P09 柴田順生・中島保寿・畔野翔太・菜花 智 福島県いわき市の上白亜系双葉層群玉山層から産出したウミガメ類化石
- P10 真貝人和・柴田正輝 タイ国のイグアノドン類 *Sirindhorna khoratensis* の歯骨歯に見られる微細構造の形態的特徴
- P11 幸地 佑・河部壮一郎・今井拓哉・柴田正輝・星野真人・上杉健太郎 シンクロトロン放射光を用いた X 線  $\mu$ CT 法による *Fukuisaurus* の歯冠セメント質の組織学的解析
- P12 大門一輝・鰐本武久・國松豊 タイの中新統から産出したワニ類化石群（予報）
- P13 吉原桃果・千徳明日香・長澤祥太郎 スズメガイダマシの骨格形成様式と腹殻突起構造の機能-ライブイメージングから確認された固着生活への適応戦略-
- P14 吹本 樹・鎌滝孝信・近藤康生 下総層群におけるトウキョウホタテガイ産出頻度の分析
- ~~P15 二木志緒乃・窪田 薫・中島 礼・棚部 一成・山口飛鳥・Bernd R.Schöne・白井厚太郎 長寿三枚貝ビノスガイを用いた間氷期の高時間解像度古気候復元~~

- P16 工藤なくる・椎野勇太 キャスト・モールド型産状の利点：マイクロフォーカス CT を利用した化石密集層の 3D 形態解析
- P17 水野翔太・ルグラン ジュリアン・滝本秀夫・大花民子・中島保寿・望月貴史・加藤太一・吉川広補 岩手県下部白亜系宮古層群から産出した孢子・花粉化石
- P18 西村竜輝・ルグラン ジュリアン・山田敏弘 北海道根室層群の花粉層序学的研究および蝦夷層群との比較
- P19 神谷昂希・ルグラン・ジュリアン・小松俊文・山田敏弘・Nguyen Duc Phong 孢子群集からみた北部ベトナム Song Cau 層群の 地質年代および初期陸上植生
- P20 伴 直樹・山田敏弘 山口県の豊浦層群における前期ジュラ紀の植物相転換
- P21 杵琴章人・中川良平・関谷 透・柴田正輝 下部白亜系松尾層(三重県鳥羽市)から発見された竜脚類恐竜 “トバリユウ”の再記載と分類学的研究
- P22 大友絢琳・田中康平・François Therrien・Corwin Sullivan・Darla K. Zelenitsky カナダ・アルバータ州の上部白亜系オールドマン層から産出したハドロサウルス類の幼体骨格と卵殻化石
- P23 落合治広・平山廉 上部白亜系久慈層群玉川層から産出する円柱状化石の再検討
- P24 齋藤健人・柴田正輝 ボロン法を用いた北谷層産微小脊椎動物化石の抽出と回収率・分解能の検討
- P25 大藪隼平・小林快次 ヨロイ竜類におけるクチバン形態の多様性とその機能的および地理的意義
- P26 矢倉鉄平・小林快次・キシグジャブ ツクトバアタル 鳥脚類ハドロサウルス上科における尾端骨様構造形成過程の解析
- P27 祖父江陽介・小林快次 *Kamuysaurus japonicus* における胴椎神経棘前傾の形態学のおよび機能的解析
- P28 城川響生・小林快次・大橋智之・チンゾイック・ツクトバートル 白亜紀前期アジア産標本に基づく角竜類の系統解析と分布拡大史の再検討
- P29 君付龍祐・John Acorn・笹口果乃・Robin Sissons・Corwin Sullivan・John-Paul Zonneveld・Murray K. Gingras 体化石か生痕化石か？カゲロウ幼虫の印象化石に関する再検証
- P30 板倉義空・田中源吾 中部更新統塩原層群宮島層から産出したカゲロウ幼生化石の保存様式
- P31 平野広大・鈴木雄太郎 *Isotelus maximus* の胸部背板に認められる形態的異質性
- P32 小倉穂高・鈴木雄太郎 小型三葉虫 *Cyamella stensioei* の現地性密集産状
- P33 清水洲平・小林快次 飛翔性脊椎動物における体重推定法の検証と翼竜への応用可能性



- P34 古谷柊二・河部壮一郎・岩見恭子・富田直樹 ウミネコにおける気嚢形態の3次元デジタルイメージング
- P35 片田はるか・吉田英一 師崎層群深海魚化石はなぜコンクリーション化しないのか：化石化のタイムスケールの推定
- P36 相原要生・ロバートジェンキンズ・小木曾正造 海底に沈設された大型脊椎動物骨内における有機物結晶の形成と初期鉱化過程
- P37 橋本真篤・西岡佑一郎・ルグラン ジュリアン 静岡県富士市南松野に分布する中部更新統庵原層群岩淵層から産出した魚類化石
- P38 豊 大翔・鏑本武久・堀 利栄 愛媛県松山市道後姫塚の上部白亜系和泉層群から産出する板鰓類化石群
- P39 岡部菜々子・ダニエル ポーリー(Daniel Pauly)・ローレン サラン(Lauren Sallan) 初期の無顎類 *Protaspis* spp. (Heterostracan) の個体発生と個体群構造
- P40 宮田真也・高橋栄治・鶴野 光・平山 廉 ( 上部白亜系久慈層群国丹層から産出した魚類化石群 (予報)
- P41 川本一陽・小林快次・Julien Legrand 北海道むかわ町穂別産のプロトプテルム科鳥類化石
- P42 新田樹生・鏑本武久・ヒシグジャウ=ツォクトバートル・ソヨル=バアサンフー モンゴル上部始新統 Ergilin Dzo 層から産出した鳥類の上腕骨化石
- P43 橋本拓歩・河村愛・河村善也 山口県美祢市江原地域から産出した中期更新世のハタネズミ亜科化石
- P44 城戸太郎・相場大佑・中田健太郎 南部北上帯(上部ジュラ系)から産出したペリスフィンクテス属大型アンモナイト類の新標本
- P45 北島陽生・北畠京祐・泉賢太郎 堆積物中の環境DNA(sedDNA)を対象とした保存性の温度条件の検証
- P46 辻野泰之 徳島県小松島市櫛渕地域に分布する白亜系外和泉層群櫛渕層の堆積年代
- P47 石井義弘・宇都宮正志・泉賢太郎 下部更新統上総層群大田代層の古環境指標の層位変化
- P48 中山健太郎・安里開士・辻野泰之・中尾賢一・小布施彰太・中田健太郎 徳島県勝浦地域に分布する下部白亜系立川層より産出した汽水・淡水生貝類化石群
- P49 齊藤尚輝・加瀬友喜 北海道及びサハリン南部の白亜系産モミジソデガイ科腹足類 *Tessarolax* 属(軟体動物門)の分類学的再検討
- P50 長井裕季子・高木悠花・高山佳樹・下出信次・豊福高志 微細構造観察から推測する浮遊性有孔虫 *Globigerina bulloides* の殻形成
- P51 土屋正史・Bruce W. Hayward・Maria Holzmann・Jan Pawlowski・Justin H. Parker・Tuhsar Kaushik・Makoto S. Toyofuku 分類再考：*Ammonia beccarii* の呪縛

P52 宇都宮正志・Harry J. Dowsett バージニア州南東部, ヨークタウン層(鮮新統)の石灰質ナノ化石層序と群集変化

＜ポスター講演 理学部会場＞

P53 池田雅志・沢田 健・安藤卓人・高嶋礼詩・西 弘嗣 白亜紀中期における菌類フロラの変遷復元：白亜系海洋無酸素事変層準堆積岩を用いた菌類パリノモルフ分析の適用

P54 望月貴史 岩手県花巻市大迫町のシルル系名目入沢層から産出した藻類化石

P55 長谷川卓・高橋月香 白亜紀のハプト藻バイオマーカー・アルケノン C40:2Et：その cis 異性体の温度依存性に関する考察

P56 瀬戸川正和・堂満華子・坂井三郎・尾坂兼一・勝山正則 琵琶湖産現生セタシジミの殻を用いた酸素同位体温度計

P57 田中源吾・東征史朗 微化石は何個体抽出するのが良いか？－内湾性介形虫群を例に－

P58 泉 賢太郎・北畠京祐・今藤夏子・大越健嗣 堆積物中の環境 DNA 分析に基づく内在性ベントスの個体数推定：潮間帯に生息するアナジャコを事例として

P59 野口凜人・一島啓人 発見から 40 周年を迎えるスマトネズミイルカのこれまでの歩み

P60 一島啓人・古沢 仁 北海道上部中新統盤ノ沢層産の世界最古のイッカク科化石

P61 田中嘉寛 札幌市で発見された完新世のクジラ化石について

P62 中村冬弥・柴田正輝・Wenjie Zheng・Xingsheng Jin 上部ジュラ系髻髻山層(中国)から新たに産出した 幼体のウコンゴプテルス類翼竜化石

P63 松本涼子・藤原慎一 四肢動物における頭骨の縫合様式パターンと機能

P64 新村龍也・主森 亘・安藤達郎・澤村 寛 3D 技術を用いた *Allodesmus uraiporensis* 標本の再検討と足部関節の新知見

P65 安藤佑介・河部壮一郎・新村龍也・小田 隆・徳川広和・北川博道・甲能直樹 パレオパラドキシア瑞浪釜戸標本の復元と展示

P66 木吉智美・田中嘉寛・大澤 仁・山岡隆信 広島県庄原市・三次市の中新統備北層群からヒゲクジラが何個体産出しているのか

P67 ミシェル・ハーベル・甲能直樹・菊池芳文 茨城県北茨城市の高久層(下部中新統)から産出した束柱類化石

P68 池上直樹・富田幸光 御船層群上部層の真獣類化石の追加標本

P69 近藤洋一 ナウマンゾウ (*Palaeoloxodon naumanni*) の時代変異と 島嶼化の影響

P70 小平将大・中谷大輔・湯川弘一・柴田正輝・宮田和周 長崎市上部白亜系三ツ瀬層から産出した鎧竜類の歯について

- P71 柴田健一郎・西田尚央・松川正樹 SfM 多視点フォトグラメトリーの古生物学と地質学への応用
- P72 丸山啓志・塚本明日香 体験格差解消を目的とした古生物資料活用—チバニアンを例に—
- P73 坂本拓海・酒井佑輔 中部縦貫自動車道大野油坂道路整備工事により排出された岩石を活用した福井県大野市の取り組み
- P74 関谷 透・柴田正輝・Rattanaphorn Hanta・Duangsuda Chokchaloemwong タイ王国チャイブーム県のナム・ポン層（中部ジュラ系）から産出した竜脚類の頸椎化石について
- P75 中谷大輔・小平将大・仲谷英夫・佐藤たまき 北海道小平町産長頸竜類化石の内耳形態の解析
- P76 中島保寿・伊左治鎮司・丸山啓志・岩本直哉 下部白亜系銚子層群から産出した海生爬虫類化石
- P77 築地祐太・柴田正輝・宮田和周・酒井佑輔 福井県大野市の下部白亜系伊月層から産した新たなトカゲ類化石
- P78 佐野瑞穂・野田昌裕・片田はるか・飯島正也・河部壮一郎 大分県宇佐市の津房川層（鮮新統）より産出した ワニ椎骨化石に見られる異常構造

【15:50－16:05】休 憩

【16:05－17:35】一般講演 口頭発表 1（A-D 会場）

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
脊椎動物の部 1 (形態解析)	脊椎動物の部 5 (魚類)	古海洋の部 1	古植物の部 1・昆虫
座長：藤原慎一	座長：宮田真也	座長：宇都宮正志	座長：成田敦史
A1 平山 廉・久保 泰 竜脚類の外鼻孔に関する考察	B1 <del>山北 聡・甲斐奏音</del> 下部三畳系 Spathian の <del>コナドント</del> 生層序上重 要な <i>Triassospathodus</i> 属 2 種の器官構成と有 効名	C1 四木りさ・池田雅 志・安藤卓人・沢田 健 グリーンランド北西部の 中生代堆積岩から見 出される有機質微化石 の多様性	D1 酒井佑輔・寺田和 雄・湯川弘一・築地祐太 福井県大野市における 中部縦貫自動車道九頭 竜トンネル工事で産出 した中期ジュラ紀貝皿 植物群の新標本
A2 越前谷宏紀・小林 快次 3DCG を用いたカ ムイサウルス全身骨格 の復元	B2 濱田真実・藪本美 孝・有田直矢・入月俊明 島根県下～中部中新統 川合層産シシャモ属魚 類	C2 市村駿汰・田中源 吾・武藤 俊・松本廣 直・高橋 聡 ペルム紀 -三畳紀境界期のパン サラッサ遠洋海山頂部 石灰岩(上村石灰岩)か	D2 矢野滉紀・中村英 人・湯川弘一・安藤卓 人・寺田和雄 植物分 子化石に記録された手 取層群北谷層の中生代 古植生

		ら産出した介形虫化石群	
A3 高田健太郎・飯村忠浩・小林快次 ハドロサウルス科恐竜の歩行様式推定における骨リモデリング分布解析	B3 簀本美孝・蜂矢喜一郎・水野吉昭・大路樹生 知多半島中新世師崎層群産サバ科魚類について	C3 松岡 篤 ジュラ/白亜紀境界付近の年代を示すマリアナ放散虫群集の分類学的検討	D3 飯田晃貴・矢部淳・猪瀬弘瑛・久保田彩・西田治文 白亜紀メタセコイア属の多様性：福島県双葉層群新産の鉱化化石球果の解剖と類縁
A4 鬼塚翔暉 小林快次 デイノケイルス・ミリフィクス(獣脚類:オルニトミモサウルス類)の成長過程と巨大化形態の進化的意義	B4 両角裕介・田中康平・松本廣直・シェルゾッドマクマドフ・ユーリーフェドロフ ウズベキスタン共和国の上部白亜系Bissekty 層から産出する魚類化石群集	C4 萩野 穰・岩井雅夫・本山 功・Marianne CONIN・Patrick FULTON・Jamie KIRKPATRICK・小平秀一・Christine REGALLA・氏家恒太郎・江口暢久・前田玲奈・奥津なつみ・Sean TOCZKO・IODP Exp. 405 乗船研究者一同 三陸沖の遠洋性粘土から産出した放散虫化石とイクチオリス	D4 田中望羽・寺田和雄・山田敏弘 群馬県神流町瀬林層産出の材化石 <i>Xenoxylon</i> 属の報告
A5 上田裕尋・黒須球子・酒井佑輔 欠損した獣脚類歯化石の数理的復元を目指して	B5 ブリーデン ベンジャミン・遠藤悠一・川邊恵大・真鍋真・坂田智佐子 宮城県の下部三畳系大沢層から産出した板鰐類の背棘	C5 守屋和佳 白亜紀中期セノマニアン/チューロニアン期境界における炭酸塩溶解と有機炭素埋没に対する浮遊性有孔虫化石群組成の応答	D5 沢田 健・宮田遊磨 白亜系堆積岩に含まれる植物化石片の抵抗性高分子分析による 古植生復元
A6 坂根広大・高桑祐司・田上 響・河部壮一郎 角竜類のクチバシにおける角質分布域の推定		C6 近藤康生・長谷川慶悟・吹本 樹・池原 実 古日本海の水溫季節変動からみた大桑・万願寺動物群の絶滅原因	D6 大山 望・阿部純大・平山 廉・鵜野 光・新田久男・久保麦野 上部白亜系玉川層から産出したシリボソクロバチ科の発見

【17:35－17:45】休憩

【17:45－18:00】ポスター賞表彰式 (B 会場)

【18:00－18:10】休憩

【18:10－20:10】夜間小集会 （A 会場）

## みえない"モノ(化石・形質)"による形態進化史再構築

世話人：久保孝太（東京大学）・池上森（北海道大学）・谷口諒（エディンバラ大学）

趣旨：化石は生命史の唯一の直接的な証拠で、その情報抽出は生物進化解読で欠かさない。近年、他分野とのコラボレーションと解析技術の発展で、従来は”保存されない”，”見過ごされていた”，”取り出せない”と考えられてきた軟組織・微細構造等の化石・形質から情報を取り出せるようになってきた。この集会では、新規イメージング手法から比較解剖学・進化発生学との統合による手法まで、認識外だった“みえないモノ”を対象とする様々な研究アプローチとその最新研究成果について紹介する。

話題提供：多田誠之郎（東京大学総合研究博物館）、谷口諒（エディンバラ大学）、東山大毅（総合研究大学院）、池上森（北海道大学）

6月29日(日) 会場：北海道大学工学部 (A-C 会場)

【09:00-10:30】 一般講演 口頭発表2 (A-D 会場)

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
<b>脊椎動物の部 2</b> <b>(爬虫類・魚類)</b> 座長：中島保寿	<b>脊椎動物の部 6</b> <b>(哺乳類)</b> 座長：新村龍也	<b>分類の部 (無脊椎動物)</b> 座長：加藤萌	<b>古植物の部 2</b> 座長：酒井佑輔
A7 卓義揚・蔡政修 熱帯アジア最古のアリゲーター	B6 楠橋 直・伊左治 鎮司・大塚健斗・今井拓哉・河部壮一郎 石川県白山市の手取層群桑島層(下部白亜系)から見つかったゴビコノドン科真三錐歯類	C7 大路樹生・Neal L. Larson・Neil H. Landman サウスダコタ州南西部の上部カンパニアン階 Pierre Shale 中の冷水マウンドから産出した海シダ化石とその意義	D7 堀内順治・スティーブン マンチェスター 岩手県久慈市谷地中地区産の暁新世大型化石植物群
A8 飯島正也・Richard Blob・John Hutchinson アメリカン・アリゲーターにおける姿勢・体サイズ依存の後肢運動機能の変化	B7 甲能直樹・両角裕介・猪瀬弘瑛・鈴木苑子・藤田英留・上松佐知子 福島県塙町に分布する上部中新統久保田層の海棲哺乳類群集	C8 瀬戸大暉 山形県寒河江市に露出する上部中新統本郷層から産する <i>Mizuhopecten</i> 属と <i>Chlamys</i> 属の特徴	D8 大谷彩夏 北海道夕張市に分布する上部始新統幾春別層の植物化石群の古植生と古気候
A9 加藤敬史・湯川弘一・柴田正輝・碓京子・出山康代・河部壮一郎・嶋田真人・立石敏樹・若林 佑・辻川哲也 上部三畳系成羽層群から魚竜化石の発見	B8 大栗 碧・甲能直樹 茨城県日立市に分布する鮮新統初崎層より産出した歯鯨類の頭蓋	C9 松隈友哉・大山 望 石炭系秋吉石灰岩層群から産出した腕足動物群 特に Choristitidae 科 <i>Alphachoristites</i> 属の発見	D9 成田敦史・本部哲矢 北海道北部名寄地域産の中新世カエデ属の大型翼果化石
A10 廖翊如・莊智凱・蔡政修 北太平洋初のアカウミガメ化石と超微化石の生層序	B9 木村敏之 群馬県の富岡層群原田篠層より産出したマッコウクジラ類化石	C10 田中源吾 日本産 <i>Trachyleberis</i> 属 2 種の形態学的特徴	D10 鳥井夏希・渡辺正巳・入月俊明・岩谷北斗 宮崎県児湯郡鮮新-更新統高鍋層における花粉分析を用いた古環境復元
A11 多田誠之郎・平山 廉・河部壮一郎・池田忠広・田中公教 <i>Mesodermochelys undulatus</i> の頭骨形態と分類学的再検討	B10 長澤一雄・高橋静夫・瀬戸大暉 新たなヤマガタダイカイギュウ化石の認識とその意義	C11 向井一勝・山田敏弘・田中源吾 北海道留萌市の中中部中新統ユードロ層より産出した介形虫の 2 未記載種	D11 山川千代美・神谷悦子・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 滋賀県多賀町四手産の大型植物化石群に基づく古植生復元
A12 吉本賢一郎・仮屋山博文・田村元樹・小薮大輔・米山明男・兵藤一行・平野馨一・野中茂紀・東山大毅・平沢達矢・鈴木大地 ヤツメウナギ幼生頭部の精密形態解析から探る脊椎動物口器の初期進化	B11 浦田倫太郎・鰐本武久・小松俊文・對比地孝亘・堤 之恭 長崎県五島列島中通島の中中新統五島層群より産出した反芻類の化石とその地質年代(予報)	C12 齋藤めぐみ・林 辰弥・羽田裕貴・William N. Krebs アイダホ層群の湖沼堆積物より産する珪藻化石の多様性	D12 矢部 淳・清水道代・齊藤 毅・小林真生子 三徳型三朝成植物群から発見された新たな翼果化石とその意義

【10:30－10:45】 休憩

【10:45－12:15】 一般講演 口頭発表 3 (A-D 会場)

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
<b>脊椎動物の部 3</b> <b>(形態解析)</b> 座長：多田 誠之郎	<b>古海洋の部 2</b> 座長：長谷川 卓	<b>古生態の部</b> 座長：徳田悠希	<b>地質・普及・古脊椎動物(8)の部</b> 座長：丸山啓志
A13 藤原慎一 真無盲腸類(Eulipotyphla)哺乳類の胸部骨格の運動適応	B12 宇都宮正志・小暮敏博・萩野恭子・Jean M. Self-Trail 新生代円石藻の進化に伴うココリスの結晶方位変化	C13 守川翔太・江崎洋一・岸田明生・竹田裕介・足立奈津子・劉建波・伊庭靖弘 中国山東省の張夏層から産出するカンブリア紀サンゴ Cambroctoconus の群体成長様式	D13 猪瀬弘瑛・竹谷陽二郎 北海道沼田西部地域の白亜系蝦夷層群
A14 コットム・サミュエル・ロスティ・マルコ・エドアルド・プラデル・アラン・サンソム・イヴァン・サラン・ローレン 初期脊椎動物の遊泳：サカバンバスピスの流体力学を探索	B13 北村晃寿・齊藤毅・河潟俊吾・守屋和佳 熱海土石流堆積物に含まれる軟質泥岩礫の微化石層序学的研究	C14 江崎洋一・岸田明生・守川翔太・竹田裕介・足立奈津子・劉建波・伊庭靖弘 中国山東省に分布するカンブリア系張夏層スロンボライト中の 隠棲空間の活用過程	D14 安藤寿男 北海道白亜系蝦夷層群の調査資料と軟体動物化石標本の寄贈
A15 結城和久・神屋佑平・結城光平 大型翼竜の飛行能力に関する流体力学的考察(方法論の検証)	B14 板木拓也・見邨和英・宮川歩夢 微化石 AI 自動分類システムへの物体検出機能の実装	C15 三上智之・遠藤悠一・岡村太路・菊地デイル万次郎・芳賀拓真・重田康成 モロッコ・フェゾウアタ頁岩の三葉虫は集団行動をしていたのか？	D15 岩崎広大 河村愛 河村善也 張鈞翔 三田村宗樹 台湾南西部菜寮地域の第四紀哺乳類化石の産出層準決定のための調査
A16 犬塚則久 消化器官系の進化解剖学的解析	B15 飯塚 睦・関 宰・板木拓也 最終間氷期における南緯 60 度以南の水塊変動の復元	C16 泉 賢太郎 堆積物食ベントスの体サイズと摂食戦略の関係性：生痕化石の産状と数理モデルによるアプローチ	D16 吉池高行・吉池悦子 プライベート ミュージアムの強みを活かす～それぞれの「好き」を共有する場であるために
A17 宇津城遥平・小林快次 主竜類における頸部機能と鳥類の S 字型頸部の進化的起源	B16 星 恒太郎・桑田 晃・福村 朱美・沢田 健 珪藻 Neodenticula の分子化石の探索とその新第三系堆積物への古生物学的応用	C17 君付龍祐・Emily Bamforth・Robin Sissons・Corwin Sullivan・John-Paul Zonneveld・Murray K. Gingras 生痕化石から紐解く後期白亜紀ワピチ累層の古生態系	D17 成田敦史 日本の初等・中等教育における古生物教育の課題と意義
A18 澤村 寛・新村龍也・安藤達郎・小林快次・高畠孝宗 デスモス	B17 木ノ下りとみ・池田雅志・沢田 健・林 圭一・太田 映・黒田潤一	C18 相場大佑・田近周・村宮悠介・韓 亜璇・安里開士・壺井基裕	

チルス大型個体の頭蓋復元	郎・星 博幸・高嶋礼詩・西 弘嗣 北海道川流布 K/Pg 境界の珪藻分子化石記録の考察	後期白亜紀アンモナイト類 <i>Gaudryceras tenuiliratum</i> の住房内に保存された軟組織残存物および消化管内容物	
--------------	---	--	--

【12:15－13:15】休憩

【13:15－14:45】一般講演 口頭発表 4 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
脊椎動物の部 4 (恐竜の分類と古生態復元手法) 座長：河部壮一郎	脊椎動物の部 7 (哺乳類) 座長：西岡佑一郎・半田直人	形態解析の部 座長：田中源吾
A19 四宮七瀬・古屋俊和・白井厚太郎 魚類椎体の微量元素分析による回遊履歴復元	B18 瓦亮狄・Yogaraj Banerjee・David M. Baker・張鈞翔・蔡政修 台湾更新世のパレオロクソンの食性と古環境の復元	C19 山下 極・丹 陸真・小倉翔・広 0 瀬 修 形状データ解析が明らかにする貝殻形状と生息地との関連
A20 服部竜士・中島保寿・浅沼尚・平沢達矢・白井厚太郎・飯塚毅・平田岳史 化石のストロンチウム同位体比分析による上部白亜系 Kem Kem Group 産脊椎動物の生息域復元	B19 河村善也・河村 愛 第四紀の東アジアにおけるバク類の分布	C20 生形貴男 プロクラステス距離に基づくアンモノイドの形態的多様性評価
A21 三歩一 孝・角皆 潤・中川書子 リン酸三酸素同位体組成を指標に用いた海棲脊椎動物の体温推定	B20 河村善也・河村愛 琉球列島における完新世の哺乳類の絶滅	C21 椎野勇太・益子佳公 カシパンウニ類の肛門すかし：機能性の解明に向けた形態的傾向
A22 矢倉鉄平・小林快次・キングジャヴ・ツクトバアタル フレンドホ層産ハドロサウルス上科新標本に基づく形態的特徴と系統的位置の検討	B21 西岡佑一郎・國松 豊・半田直人・日下宗一郎 タイの更新世哺乳類化石群集に含まれるアジアスイギュウ属	C22 千徳明日香・西畑潤一・白水菜南子・吉原桃果・神座森・徳田悠希 微細構造が語る共生関係の痕跡 -有藻性・無藻性単体イシサンゴの骨格比較解析-
A23 小林快次・Darla K. Zelenitsky・Anthony R. Fiorillo・Tsogtbaatar Chinzorig モンゴル上部白亜系バヤンシレ層から産出した角質鞘を伴う二指性のテリジノサウルス類	B22 半田直人・西岡佑一郎 古琵琶湖層群堅田層(中期更新世)から産出したウシ科化石の分類学的再検討	C23 西田 梢 Clumped isotope thermometry: 古生物応用に向けた貝類殻の絶対温度指標の検討と分析技術開発の進捗紹介
A24 多久和隼・小林快次・Khishigjav Tsogtobaatar モンゴル上部白亜系ネメグト層から産出した竜脚類 <i>Opisthocoelicaudia skarzynskii</i> の再記載	B23 岩寄広大・河村 愛・河村善也 張鈞翔・三田村宗樹 台湾南西部菜寮地域の第四紀哺乳類化石—これまでの研究の概要と問題点および今後の展望—	



【15:00－16:30】普及講演会 A 会場

【普及講演会・化石友の会イベント】

## 北海道の化石の魅力を語る！

2025年6月29日（日）15：00－16：30

どなたでも参加可・参加無料

こんなにすごい！北海道のアンモナイト化石

相場大佑（深田地質研究所）

白亜紀の北海道を分子の「化石」が解き明かす：有機物は語る

安藤卓人（秋田大学）

札幌からみつかったクジラ化石の最新研究

田中嘉寛（札幌市博物館）

場所：北海道大学工学部 B12 講義室（C 会場）

申込：不要

参加費：不要（無料）

※本普及講演会へは無料で、どなたでもご参加いただけます。

申込も不要です。会場に直接お越しください。

### \*\*\*\*\* 3. 発表方法及び機器についての注意事項など \*\*\*\*\*

#### <口頭発表をされる方へ>

##### 【重要！】口頭講演はパソコン等持参です！貸出はありません.

- 接続端子は、HDMI か D-Sub15 ピン (VGA) の 2 種類のみです。それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプターをお持ち下さい。
- WiFi は Eduroam のみ利用できます。
- あらかじめ休憩時間などに接続状況を確認して下さい。講演時には接続作業時間も含まれます。
- プロジェクター画面は原則として 4:3 画角となります。
- デュアル・ディスプレイ設定のノートパソコン（普段、外部モニターと併用しているノートパソコンなど）は、シングルモニタに切り替えてください。
- パソコン等の接続・操作は、発表者ご自身でお願いします。
- 一般講演の口頭発表時間は 15 分です（質疑応答、使用機器の接続時間含む）。

#### <ポスター発表をされる方へ>

- ポスターのサイズは A0（横 841 mm × 縦 1189 mm）が基本です。一発表につき、指定されたボードを 1 枚ご利用ください。
- ポスター会場はクラーク会館 大集会室 1・大集会室 2・展示場に 60 面、理学部 5 号館 2F ロビーに 30 面あります。貼り付け場所は当日にご確認ください。
- ポスターは 6 月 28 日（土）の 9:00 から貼ることができます。また、28 日（土）の 16:00 までに各自撤収して下さい。はがしたポスターはお持ち帰りください。
- ポスター掲示用の画鋏やテープ類は会場で用意します。ボードの種類によって利用可能な留め具が異なります。必ず指定に従ってください。

#### <ポスター発表をされる方へ>

- ポスターのサイズは A0（横 841 mm × 縦 1189 mm）が基本です。一発表につき、指定されたボードを 1 枚ご利用ください。
- ポスター会場はクラーク会館 大集会室 1・大集会室 2・展示場に 60 面、理学部 5 号館 2F ロビーに 30 面あります。貼り付け場所は当日にご確認ください。
- ポスターの掲示可能時間については後日ご案内します。

## ＜ポスター賞審査にエントリーされた方へ＞

第 174 回例会（2025 年 1 月開催）より，ポスター賞審査にエントリーした発表について，ポスターにエントリーロゴ（右図）を配していただくようになりました。

以下 URL からエントリーロゴをダウンロードしていただき，ポスター資料の右上の見やすい箇所につけてポスターを作成してください（印刷版ポスターで幅 10cm 程度の大きさになることを想定して，見やすい大きさとしてください）。

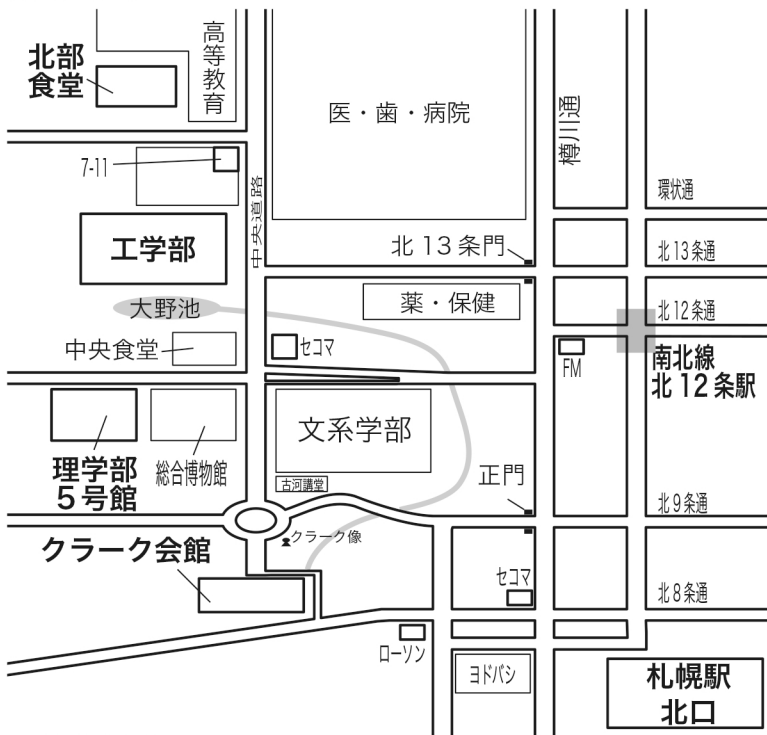


[https://www.palaeo-soc-japan.jp/events/BestPosterAward\\_EntryLogo.png](https://www.palaeo-soc-japan.jp/events/BestPosterAward_EntryLogo.png)

## ＜会場への案内について＞

- ご来場について：公共交通機関をご利用ください。
- 本年会は北海道大学札幌キャンパスで実施します。シンポジウム・総会はクラーク会館 1F，懇親会は大学生協北部食堂，ポスター会場はクラーク会館 3F と理学部 5 号館 2F ロビー，口頭講演は工学部で行います（次ページ地図参照）。
- 各会場が離れていますので，ご留意ください。

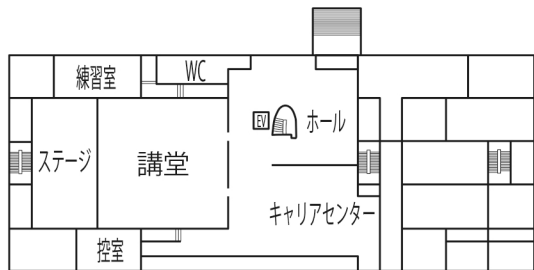
## 会場概略



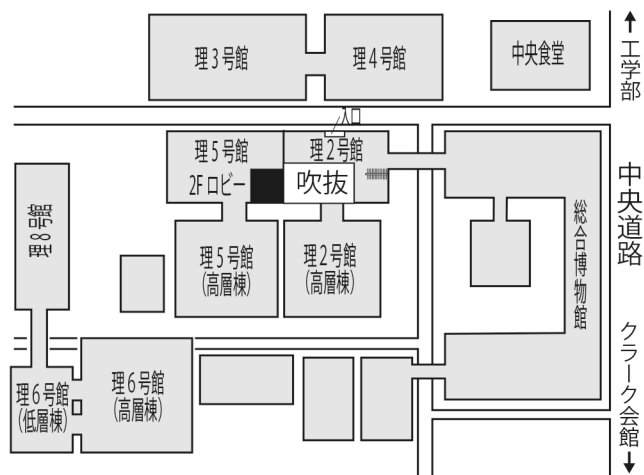
### ＜徒歩目安＞

- ・札幌駅（JR，地下鉄南北線・東豊線）↔クラーク会館：10 分
- ・北 12 条駅（地下鉄南北線）↔工学部：10 分
- ・クラーク会館↔工学部：10 分
- ・クラーク会館↔理学部 5 号館：8 分
- ・クラーク会館↔北部食堂：15 分

クラーク会館 1F \*正面階段から地下へ

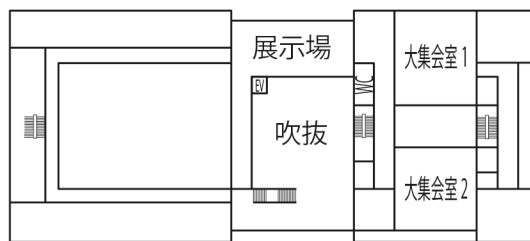


## 理学部 5 号館 2F ロビー



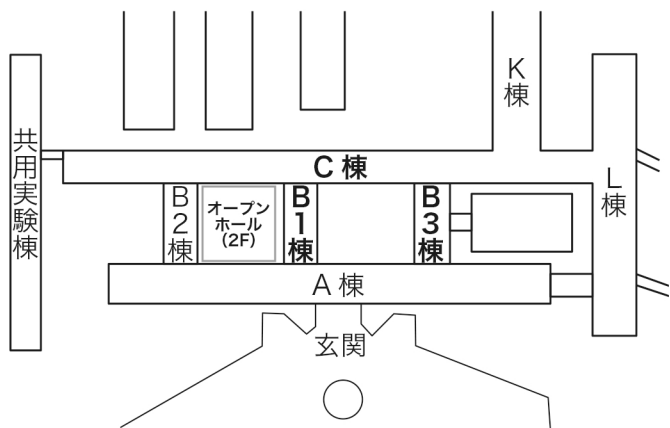
\*理学部2号館入口から入って2Fへ  
(5号館と2号館は連結)

クラーク会館 3F

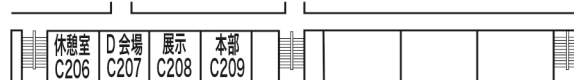


＊2F（地上階）はクラーク食堂

## 工学部



C 棟 2F



B棟 1F

